

令和元年度第1回学校関係者評価委員会 記録

日 時：令和元年6月21日（金）15:00～16:30

場 所：名古屋芸術大学保育専門学校 本館2階会議室

委 員：武石 協子（企業代表）

大畑 領治（地域代表）

松尾 ゆか（保護者代表）

水越 省三（同窓会代表）

学校側出席者

杉浦宏幸(校長)、坂部良二(副校長)、木村節治(保育科長)、加藤由美(教学主任)

議 長：杉浦校長 （記録：坂部副校長）（敬称略）

1 開会のあいさつ

副校長から開会の挨拶がされた。

2 校長あいさつ

校長から出席者への挨拶後、新たな法整備にともないカリキュラムの大幅な見直しを行ったこと、また、高等教育無償化の動きに伴い、本校も対象校としての認可を受けべく申請書を作成していることなど、保育者養成施設にとって大きな転換期を迎えていることの説明があった。

3 委員の委嘱について

「名古屋芸術大学保育専門学校関係者評価委員内規」（資料1）の説明後、資料2に基づき出席者紹介（自己紹介）があった。

4 本校の概要

- (1) 令和元年度教育理念・教育目標・求める学生像・めざす学生像・経営方針・職業実践専門課程の認定について、資料3に基づき校長より以下の概要説明があった。

教育理念・教育目標については、「人と接する」職業であることを重要と考え、実践力とあわせて人間力を高めていくことに重きを置いていきたい。

目指す学生像は現場に出すときの姿をあげた。(1)は保育者としての指導技術、(2)は学びに関わる力、(3)は子どもへの指導力等を身につけることを示している。特に(4)は昨年指摘いただいた発達障害や外国人などへの指導等を考えて付け加えたものである。

求める学生像は入学時点での学生に求めるものである。

経営方針としては、学生支援の重点として4点、教職員の重点努力目標として5点あげている。学生支援については、学生ファーストの考え方から、学生のよいところを評価することを大切にしている。また、人と人との関係を育てるために、授業の中でも話し合いや発表の場を多く作るようにするとともに、学生自身の気づきを大切にしたい授業の展開に心がけている。

教職員の重点努力目標としては、特に2年間で5回の実習を行うなど職業実践専門課程の趣旨に添った成果を学生の姿で示していくことを重要に考えている。

文部科学省から「職業実践専門課程」の認定を受けたことにも、その意義と使命を果たすためにも、幼稚園、保育所が隣接している利点を活かし、両園で充実した実習を行うと共に、現職の保育士等にも積極的に授業の指導を行っていただいている。また、「職業実践専門課程」の条件でもある「学校関係者評価」や「教員研修の充実」、「情報公開の推進」にも力を入れている。

- (2) 令和元年度学生数状況について、資料4に基づき、保育科長より概要説明があった。
- (3) 平成30年度就職状況について、資料5に基づき、保育科長より説明があった。
- (4) 新教育課程に関し、資料6の新旧対照表に基づき、単位数が「85」から「87」に増えたこと、指導方法もより実践的内容になるように実務経験者を増やし、実務経験者が担当する講義を明示したこと、特別支援教育への理解や本校が独自に設定する科目を設定したこと等について、保育科長から説明があった。
- (5) 2019年度前期・後期時間割表について、資料7に基づき、本校の時間割の特徴を中心に保育科長から概要説明があった。
- (6) 2019年度年間行事計画について、資料8に基づき、保育科長から概要説明があった。
- (7) 平成30年度の自己評価及び学校関係者評価の結果について、資料9に基づき、校長から報告があった。その際、関係者評価に比べ自己評価が甘い傾向にあるので、自己評価の基準を見直し厳密にやっていきたいこと、委員の方にも自己評価にあわせて評価票の作成をお願いしたいこと、の2点について付け加えられた。
- (8) 平成30年度の学生による授業評価の結果(資料10)から、教員の授業方法の改善が進んでいる傾向が見られるが今後も一層授業改善に努めていくこと、また、様々な学生がいるので、今後さらに個に応じた指導方法をとっていく必要があることの報告が校長からあった。
- (9) 平成30年度第2回学校関係者評価委員会出だされた5つの提言に関し、資料11に基づき、それぞれの項目について、芸術分野において本校独自の科目を開設したこと、実習に向けていわゆる⑤領域の指導を充実させたこと、学校祭への教員の関わりを見直したこと等、本年度の取り組みに反映している旨、校長から報告があった。
- (12) その他として、平成30年度の各奨学金等受給について、資料12に基づき、保育科長から報告があった。

5 協議(説明に関する質疑及びご意見)

委員…自分のところの保育所では、例えば、朝7時30分から男女1名ずつ手伝ってもらっているなど、名保専の学生さんにとっても助けられている。夜間保育においても、とてもよくやってくれている。本年度は特に優秀な学生さんが多く、地域の他の保育園からもうらやましがられている。この調子で、名保専がますます発展してくれることを望んでいる。

校長…そのことは幼稚園でも同じで、保育士不足を学生に補ってもらい助かっている。

学生にとっても、よい学びの場となっている。

委員…昨年は学生の様子で気になることもあったが、今年は朝あいさつしてくれる学生もいてとても気持ちがよかった。

「人として」という話があったが、時代によって人は変わっていくことを感じている。以前は学童保育のボランティアにも、単位として認められるということだけこう来てくれていたが、なくなると急に来なくなってしまった。単位をとるためだけに行っていたとしたら、それは人間的にどうだろうかという思いである。

委員…入学してから卒業するまでの間に学生が減っている。退学者が多いのは学生自身の問題なのか、学校との関係からか気になる。学校から見て、やめていってしまう理由としてはどんなものだろうか。

校長…2年生で6名退学している。専門学校だけでなく、大学も同じ問題を抱えている。本校は資格をとることが卒業の条件でもあるが、子どもは好きで入ったがやってみたら違っていったとか、アルバイトである程度の収入が入ると気が変わるなど、本人の進路変更によるものが多い。最近では経済的理由によることもある。

学校としては入学させた責任上、初期の想いを達成させてやりたいということで、休みが増えてくると家庭とも連絡を取るなど、いろいろと手をつくして何とか通い続けられるように働きかけている。しかし、学んでいく過程で欠席が増えてきて、本人の初期の想いが変わってしまうと、話し合いを重ねても戻ってこないのが現状である。

委員…就職活動はどんな感じで行われているか。

科長…だいたい個人で行っている。7月頃から説明会も行われる。本県では、幼稚園・保育園の連盟があるので、その中で二股をかけないなどルールを作って進めている。例年7月から見学、9月から受け入れが始まる。就職自体は順調であるが、資格をとりながら一般企業に就職する学生もいるので、その点は少し残念に思っている。

副校長…多くのご意見ありがとうございました。いただいたご意見については今後教職員で十分に検討していきたい。

6 今後の予定

- ・ 次回開催 令和元年 10 月 26 日（土）学校祭当日
- ・ 学校関係者評価 令和 2 年 3 月末日まで